（様式）

# 令和６年度　学校経営報告（学校評価報告書）

四條畷市立田原中学校
校　長　鉄　　寿　広

## １　学校経営方針

◎四條畷市教育振興基本計画

予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもから大人まで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要です。（四條畷市教育振興基本計画より）

みんなの学びが叶うまち
～　生涯　学び　夢　挑戦　～

★上記の基本理念に基づき、校区の子どもたちの実態を踏まえ、学校教育目標を以下のように定め、様々な教育活動に取り組んでいく。その際のキーワードには下線を記入している。

学校教育目標

《 安 心 》　・・・　子どもたちが安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。

《 信 頼 》　・・・　「子どもたちは地域で育てる」をスローガンに子どもの活躍や課題はもちろんのこと、日常の生活についても積極的に情報発信するとともに、地域人材の活用を図ることで地域との垣根を取り除き、地域から信頼される学校をめざす。

《 笑 顔 》　・・・　子ども同士、子どもと先生、先生同士、さらには保護者も交えたつながりを深めることにより、笑顔がいっぱいの学校づくりをめざす。

基本方針

（１）　確かな学力と進路指導の充実（主として学習指導部）

・自ら課題を見つけ主体的に取り組むための基礎学力の定着を図る。

・GIGA スクール構想に基づき配布されたタブレット PC を十分活用し、個別最適化された学びの充実を図る。

◎個別最適化された学びが孤立した学びにならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士や他の人との協働的な学びについて調査・研究を深め、実践を進めていく。

・小学校からの系統性のあるキャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが夢をもって自分に合った進路選択ができるような進路指導に努める。

（様式）

（２）豊かな心の育成と温かい人間関係作り（主として学年）

・人間関係作りの第一歩として挨拶の推進に取り組む。

・様々な出会いを大切にし、様々な価値観や考え方のあることを知ることで、他の人への思いやりの心の醸成を図る。

・道徳教育や人権教育の理念を大切にし、子ども自らがこれからの生き方について、しっかりと考えることができるよう取り組みを進めていく。

（３）生徒指導の充実（主として生徒指導部）

・生徒指導は子ども理解からとの考えのもと、日頃からの声掛けや観察を大切にし、問題行動等の適切な未然防止・早期対応に努める。

・子ども理解に向け、支援教育について研鑽を積み、これまでの常識にとらわれない理解に努める。

・適切な集団作りは、適切な子ども理解があってこそできるのであって、教える側の理想とする集団作りは時により子どもの成長をとめてしまうこともあることに留意する。

◎生徒会活動や学校行事への積極的な参加を進め、リーダーの育成を図るとともに自主・奉仕・協調の精神を育てる。

（４）健康管理・安全教育・食育の推進（主として生徒指導部）

・自らの体力を知り、生涯にわたって運動に親しみ、自ら健康を管理し、改善していく資質や能力を育成する。

◎安全の大切さを認識させるとともに、自他の生命を尊重し、自ら進んで安全の保持に努める態度を養う。

・登下校時や学校生活、自然災害等における危機管理体制を確立し、安心・安全な学校体制の充実を図る。

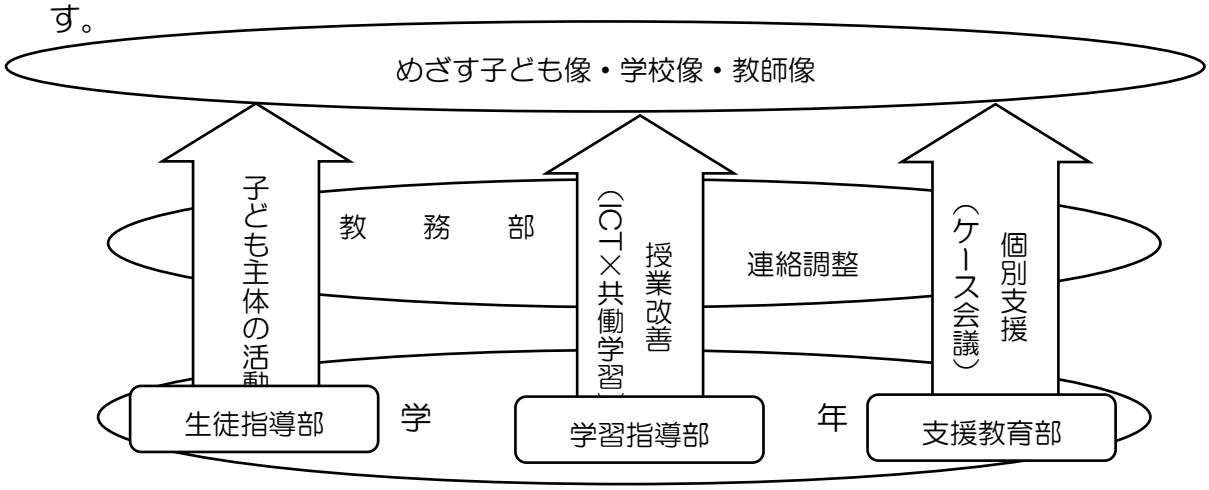
・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。

（５）地域に開かれた学校づくり（学校運営協議会及びこ小中連携会議）

・自分たちの生活する地域の環境に目を向け、素晴らしい環境を守り、育てる態度を養う。（郷土愛）

・こ小中の連携をすすめ、同じ方向性で校区の子どもたちの成長を支える取組みを計画的に実践する。

・学校運営協議会の充実を図り、地域の学校として地域に愛される学校づくりをめざす。



（様式）

| ２　めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標） | |
|---|---|
| ★めざす子ども像 | キャッチフレーズ≪はなそう、つながろう、やってみよう≫<br>こども園、小学校、中学校とで連携して各学校園の卒業時のめざす子ども像を、学校運営協議会でコミュニティ・スクールとしてのめざす子ども像とした。<br>≪中学校≫<br>「はなそう」：大人にも子どもにも本音でしゃべれる子<br>※自分の思いを相手の気持ちを尊重しつつ工夫して伝えられるように<br>「つながろう」：誰とでも幅広く交友関係を持てる子<br>※決まった相手だけでなく多くのつながりを持ち、結果全体としてまとまることができるように<br>「やってみよう」：失敗を恐れず自分で考えて行動できる子<br>※結果に左右されず自分の興味関心に基づいて様々なことにチャレンジできるように |
| ★めざす学校像 | ・人権、個性が尊重され、一人ひとりが生き生きと活動できる学校<br>・子どもたちが楽しく学び、確かな学力が身に付く学校<br>・美しく学習環境が整った学校<br>・地域に開かれた学校（コミュニティ・スクール） |
| ★めざす教師像 | ・社会情勢について注視し、生徒や学校における課題を見つけることができる教職員<br>・課題を明確に把握し、常に情熱と使命感を持ち、チームを意識した職務遂行に当たる教職員<br>・豊かな人間性と社会性を持ち、互いに協力し、温かみあふれる教職員<br>・危機管理意識の高い教職員 |

（様式）

## ３　学校の現状（よさと課題）

（１）子どもたちの実態

（良い面）

学びたいという気持ちが強く、授業にも前向きに取り組む生徒が多い。
授業態度もよく、ペア学習やグループ学習にも積極的に参加できる。
昨年度の取組みから様々な学校行事や学年行事において主体的に取り組み参加しようとする姿が見られる。

（課題）

学習面では、家庭学習で計画を立てて、自分一人で勉強することが苦手。
また、全てにおいて自分のことをきちんとする力のある生徒は多いが、全体としてはグループの中でリーダーとなって、人を仕切る力が弱い。

（２）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

家庭環境的にはとても落ち着いているが、学力については格差が大きく、中間層よりやや下の層が多くなってきた。
教育熱心な保護者が多いが、意外と親子での親身な話し合いがなされず、過度な期待のプレッシャーに負けてしまう生徒もいる。

②地域

一小一中で、９年間を見通した取組みができる反面、トラブル等で崩れた人間関係の修復は、狭い地域の中で困難なことも多い。

③組織（教職員、PTA、保護者）

（教職員）

学校規模の縮小により人数が少ないため、学年・各部を超えてチームで連携して協力することが必要であり、逆にそのことを強みとして取り組んで行く必要がある。また、授業力改善に向けての取組みは、とても進んできた。新しい先進的な取組みに触れることで更なる飛躍をめざしたい。

（PTA、保護者）

教育熱心な家庭が多いため、教育活動に寄せる関心度は高い。
保護者の大部分は、学校の頑張りはしっかりと評価し、協力体制も安定している。
PTA 活動はとても協力的で、学校や地域の行事にも積極的に参加する人が多い。しかしながら、任意加入になったことから様々な面で制約が生じていることも事実であることから、できることを協議しながらよりよい PTA 活動を再構築していく必要がある。

## ４　今年度の達成目標、具体的な方策

**目標設定区分１　『学校経営』**

| Ａ　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
|---|---|
| ①「ICT×協働学習」を本校における授業改善の目標に置き、そのための取組を進めていく。<br>②生徒会活動に加え、授業においても子ども主体の取組みをすすめ、田原中校区のめざす | 学習に関するアンケート（学期ごとに実施）<br>学校教育自己診断アンケート<br>（１月下旬に１回実施） |

（様式）

| | |
|---|---|
| 子ども像の実現を図る。<br>③支援教育の理念を大事にし、子ども理解に基づいた学習支援・個別支援及び生徒指導を進める。<br>④キャリア教育の視点で学校の教育活動を再構築することで、自己有用感の醸成を図る。 | |

B　目標実現に向けた取組み

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価（◎）達成、（○）改善（△）改善されず |
|---|---|---|---|
| ①-1 学習に関する生徒アンケート項目「ICT 機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか。」<br>①-2「ICT 機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか。」の肯定的回答<br>①-3 学習に関する教職員アンケート項目「タブレット PC を教具以上に活用した。」の肯定的回答 | ①-1 現状 74%<br>目標 80%<br>→7 月：72%<br>→11 月：71%<br>①-2 現状 53%<br>目標 80%<br>→7 月：56%<br>→11 月：60%<br>①-3 現状 61%<br>目標 80%<br>→7 月：67%<br>→11 月：58% | ①-1<br>1 月 64%<br>①-2<br>1 月 56%<br>①-3<br>1 月 76% | ①-1（△）<br>①-2（○）　⇒　全体として（○）<br>①-3（○）<br>本年度は研究授業や指導案の共有を徹底し、教職員の強み・弱みの分析に基づく授業改善を組織的に推進した結果、「学校として組織的に取り組んでいる」の強肯定の回答率は目標を上回る 56.3%に達した。一方、行事や業務との両立による負担増や ICT 活用における教員間格差が課題として残る。<br>また、AI 型ドリルの計画的活用や「創造的思考の問い」を取り入れた授業づくりなどを通じ、生徒が学習の見通しを持ち、自ら計画を立てる力を育成することをめざしたが、しかし最終数値は①-1 の項目が 64%と、目標の 80%には届かなかった。その他についてはやや改善されたが微増の結果であった。しかし、プロジェクト型学習でゴールや対象を明確にする工夫を行い、主体的な取り組み姿勢が一部向上したことは成果として挙げられる。 |
| ②-1 学習に関する生徒アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」の強肯定的回答<br>②-2 自己診断生徒アンケート項目「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の強肯定的回答 | ②-1 現状 40%<br>目標 50%<br>→7 月：37%<br>→11 月：42%<br>②-2 現状 59%<br>目標 65%<br>→7 月：57%<br>→11 月：61% | ②-1<br>1 月 39%<br>②-2<br>1 月 54% | ②-1（△）<br>②-2（△）　⇒次年度は指標の検討が必要<br>どちらの項目とも目標値には届かず、少し下がってしまった。本年度の取組みとしては、班長会など学級や教員とのミーティングを多くとることができ生徒理解が進んだ。今後は自信をもって自分の良いところが言えるための機会を設けるなど自己肯定感、有用感を高める取組みを進めていきたい。ちなみに、肯定的回答の割合はそれぞれ 81%、88%であった。 |
| ③-1 学習に関する生徒アンケート項目「学校に行くのは楽しい」の強肯定的回答<br>③-2 学習に関する教職員アンケート項目「支援教育の視点から指導上の工夫を行いましたか。」の強肯定的回答 | ③-1 現状 41%<br>目標 60%<br>→7 月：39%<br>→11 月：47%<br>③-2 現状 52%<br>目標 60%<br>→7 月：52%<br>→11 月：32% | ③-1<br>1 月 43%<br>③-2<br>1 月 63% | ③-1（○）<br>③-2（◎）　⇒次年度は強肯定でなく今日否定の回答を0にする方向で取り組む<br>③-1 は昨年度よりやや改善、③-2 も改善した。これは文化学習発表会や体育大家などの学校行事を生徒主体で取り組むことで学校が楽しいという気持ちの醸成が図られたことによるものと考える。さらには授業をはじめ学年行事や生徒会活動など背板主体での教育活動が進められ |

（様式）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | たことも大きいと考えられる。 |
| ④-1 学習に関する生徒アンケート項目「将来の夢や目標を持っている。」の強肯定的回答<br>④-2 学習に関する生徒アンケート項目「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の強肯定的回答 | ④-1 現状 47%<br>目標 60%<br>→7 月：46%<br>→11 月：39%<br>④-2 現状 71%<br>目標 80%<br>→7 月：73%<br>→11 月：67% | ④-1<br>1 月 41%<br><br>④-2<br>1 月 62% | ④-1（△）<br>④-2（△）<br>本年度の取組みとしては、3 年生は進路選択に向けた学習、2 年生は職業についての講和、1 年生は人権学習など学年に応じた取組みを行った。それ以外にもボランティア活動の推進などに取り組んだがどちらも目標の数値には届かなかった。ただ、学年が上がるにつれて 52%62%、72%と増加している。ちなみに肯定的回答はそれぞれ 68%、93%であった。今後は様々な教育活動において目標を意識させて、目標に対する振り返りを強く意識させていきたい。 |

| 目標設定区分２　『学校組織の運営』 | |
|---|---|
| A　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
| ①チーム田原として、教職員それぞれが自分の得意・不得意を認識し、得意なことはチーム田原のために活用し、不得意なことはみんなでカバーしていけるような環境づくりを構築する。<br>②こ小中連携を軸として、子どもの成長を長いスパンで見ることで、子どもの良さと課題を共有しつつ具体的な教育活動ができる組織づくりをめざす。 | 学習に関するアンケート（学期ごとに実施）<br>学校教育自己診断アンケート<br>（1 月下旬に 1 回実施） |

B　目標実現に向けた取組み

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①-1 学習に関する教職員アンケート項目「学校の状況や課題に対し、全教職員で組織的に取り組んでいますか。」の強肯定的回答<br>①-2 自己診断教職員アンケート項目「日々の教育活動における課題や悩みについて気軽に相談し合える職場の人間関係ができている。」の強肯定的回答 | ①-1 現状 43%<br>目標 60%<br>→7 月：67%<br>→11 月：53%<br>①-2 現状 48%<br>目標 60%<br>→7 月：38%<br>→11 月：47% | ①-1<br>1 月 56%<br>①-2<br>1 月 44% | ①-1（○）<br>①-2（△）<br>職員会議やその他の会議において学校の状況について確認してきた。また、日頃から情報交換できるよう声掛けを行ってきたが①-2 は目標値に届かなかった。ただ、ストレスチェックの学校としての結果は職場上の対人関係のストレスの数値は良い結果が出ている。また、働きがいについてもよい数値が出ている。ちなみに肯定的回答はそれぞれ 94%、88%であった。<br>⇒学校組織の運営はほぼ良好であると考える。 |
| ②自己診断アンケートに追加項目として、「こども園、小学校、中学校の連携した取組みは充実していますか。」を設定し、その肯定的回答を指標とする。 | ②現状無し<br>目標 60%<br>→7 月：95%<br>→11 月：90% | ②1 月<br>82% | ②（◎）⇒　目標達成<br>連携推進会議を年間 6 回言実施し、具体的な連携行事を進めてきた。あわせて、3 校園の教職員が参加した研修会を年 2 回実施し交流を深めた。また、連携した活動は 17 回実施した。これは次 |

（様式）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 年度も継続して取り組み、内容の深化も図っていきたい。 |

| 目標設定区分３　『人の管理・育成』 | |
|---|---|
| A　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
| ①様々な教育活動において、常に目的を意識した取組みを推進し、目的に対する達成度の視点での振り返りの定着を進める。<br>②先進的な教育実践に触れることで教員としてのスキルアップを図り、学校教育を俯瞰的に見る姿勢を育成する。さらには、市全体に対して発信できるスキルを身につけさせたい。 | 学校教育自己診断アンケート<br>（1 月下旬に 1 回実施） |

B　目標実現に向けた取組み

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①-1 学校自己診断アンケートの項目「本校は教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の強肯定的評価<br>①-2 学校自己診断アンケートの項目「職員会議をはじめ各種の会議が、情報交換や課題検討の場として有効に機能している。」の強肯定的評価 | ①-1 現状 35%<br>目標 50%<br>①-2 現状 35%<br>目標 50% | ①-1<br>1 月 44%<br>①-2<br>1 月 44% | ①-1（○）<br>①-2（○）<br>どちらも目標には達しなかったが、改善することはできた。児童生徒支援コーディネーターの活動を通じて毎学期のアンケート結果を各学年に返すなど学校の状況を丁寧に発信するとともに会議については時間設定や内容の精選などに取り組み、会議が有効に機能するよう工夫することが定着してきた。今後も継続した取組みを進めていきたい。 |
| ②自己診断アンケートに追加項目として、「あなたは、様々な教育実践に関心がありそのことを自分の教育活動に活かそうとしていますか。」を設定し、その肯定的回答を指標とする | ②現状無し<br>目標 50% | ②<br>1 月<br>100% | ②（◎）<br>前にも書いたようにストレスチェックの項目において働きがいの項目の数値がよいことにもらわれているが、本年度の取組みとして、弘済会のスクールフォローアップ事業を活用し、主体的な研修の機会を推奨した。多くの教員が他市や他府県に出向き学ぶことができたことも大きいと考える。 |

| 目標設定区分４　『地域連携と渉外』 | |
|---|---|
| A　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
| コミュニティ・スクールとしての定着を図る。PTA 活動や地域教育協議会の活動を通して顔のわかる関係作りを進めることで地域の学校としてのイメージの定着を進める。 | 具体的な活動内容の決定<br>地域の様々な団体との交流事業の実施<br>学校教育自己診断アンケート<br>（1 月下旬に 1 回実施） |

B　目標実現に向けた取組み

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ・活動の具体的な内容の決定<br>・具体的活動への参加 | ・活動回数<br>延べ 10 回<br>・参加実績 8 割 | ・会議 4 回<br>プール監視 9 回 | ・（◎）本年度は学校運営協議会として中学校のプール授業における陸上監視に委員の方々に参加していただいた。おかげで教員の業務の軽減が図られ大 |

（様式）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・学校自己診断アンケートの項目「学校は保護者や地域の人たちと話をする機会を設けていますか。」の強肯定的評価 | ・90% | ・24% | いに助かった。以外にも小学校での受付業務にも関わり、少しずつ学校運営協議会としての活動が進んできた。<br>・（○）学校運営協議会委員の皆様の参加は、できる範囲での参加ということもあります。しかし、上記にあるように新しい活動も含め前向きに協力いただきよかったと考えております。また、誰の参加という点も曖昧であるため指標としてふさわしくないと考えます。次年度は指標自体検討していきたいと思います。<br>・（△）肯定的回答は 82%だったが、強肯定の回答は予想以上に低かった。本年度は、昨年度と同様、参観や保護者との懇談会を実施し、話す機会の確保には努めていた。また、あいさつ運動や屋台村、田原大とんど祭りにおける PTA の屋台への応援など教員も参加し、話せる機会を作っていたが、広く認知されるまでには至らなかった。これは、話す機会は設定しているが、印象が薄かった結果だと認識する。否定的回答「設けていない」「どちらかというと設けていない」の回答の割合が 18%あることに注目してその数値の減少をという視点で取り組んでいきたいと考える。 |

## 5　学校関係者による評価（学校運営協議会等）

令和７年３月７日の学校運営協議会において、本報告書を説明しおおむね良好との評価をいただいた。以下に主な意見を掲載する。

- ８・９月のプール授業における学校運営協議会委員による陸上監視は顔のわかる関係づくりの良いきっかけとなった。
- あいさつ運動の取組みがとてもよかった。特にこども園の園児や小学生、中学生に加え地域の大人たちが参加できたことが大変良かった。
- こ小中連携して 15 年間の長いスパンで子どもの成長を見据えての各取り組みは大変すばらしかった。
- 中学生の１月のアンケートが下がっているのは進路決定の直近であるので仕方がない面がある。
- 散歩していると子どもたちが外で遊んでいない現状である。自分たちで遊びを作ったり探検したり、遊びを通じて学ぶことが少なくなってきている、

## 6　総合評価と次年度に向けて

今年度も達成規準を強肯定的評価に絞った項目において達成できていない項目が多くなってしまった。これは、それぞれの活動がほぼ肯定されているが、言い切るまでには至っていない現状があると思われる。次年度は指標そのものを再検討していく必要がある。以下に目標設定区分ごとに述べる。評価は（S、A、B）の３段階で示す。

○目標設定区分１（学校経営）（A）

①6 月 13 日の研修で行った教員それぞれの授業の振り返りをもとにプロジェクト型学習に計画的に取り組む

（様式）

など「ICT×協働学習」につながる授業改善が進んだ。

②生徒総会では生徒会が主体的に田原中の課題についてアンケートを取りその課題に向けた取組みを進めることができた。授業においても複数の課題から生徒が自ら選択して取り組み、その成果を発表の形で共有するなど子ども主体の活動の視点の定着が進んだ。

③子ども理解に基づいた取組みが進んできた。必要に応じて関係機関や専門家が参加するケース会議も位置づいてきた。

④企業によるキャリア教育プログラムの実践に加え、地域専門学校に出向いての体験学習や出入国管理局など複数の専門家を活用した授業を行うことができた。

【今後の課題】

今後はさらに生徒が自ら学ぼうとする姿勢を育み生徒はもちろんのこと保護者や教職員も笑顔が絶えない楽しい学校経営に努めていきたい。

※ほぼ目標に近い達成率であったのでＡと判断した。今後、指標事態が成果目標にあっているか検討が必要である。

〇目標設定区分２（学校組織の運営）（S）

①チーム田原として、教職員が自らの得意・不得意について考え、それを踏まえた役割分担を各部長や学年主任が考え、まとめることで、いろいろな意見が出せる雰囲気が醸成されてきた。

②定期的なこ小中連携会議を通して教職員研修を２回、子どもたちの交流事業を多く実施することができた。今後に向けてはめざす子ども像の見直しやそれに関わっての行事の見直しなど次年度の具体的な取組みに向けた振り返りをしていくこととしている。

（連携推進会議年７回、交流事業１４回実施）

※職員室での教職員間の情報交流等の雰囲気や教職員対象ストレスチェックの結果から、本年度は日常的な取組みの成果があったと判断しＳとした。

〇目標設定区分３（人の管理・育成）（S）

①年間の総括については、各分掌や学年教科の目的に基づいたものとして定着した。その上で、PDCA に基づいた振り返りを行い次年度の取組みへと生かしていく意識の醸成が図られた。

②今年度、府のスクールエンパワメント推進事業に係る研究発表会等にのべ１５名が参加し職員会議で報告した。それぞれは参加報告だけにとどまらず本校においてどのように活用できるかの視差も含めて報告することができた。あわせて、本市 TM 校の発表には学校全体で参加することができた。

【今後の課題】

今後も研究発表会などに参加を進め、自己研鑽を通じて本校教育活動にどのように具体的な取組みとして落とし込んでいくかが必要である。

※教育活動の振り返りにおいて、目的に基づいたものと定着したことや他校の研究発表ににほとんどの教員がそれぞれ参加し職員会議で報告した実績をもとにＳと判断した。

〇目標設定区分４（地域連携と渉外）（A）

①PTA 活動や地域教育協議会の活動に参加し、顔のわかる関係づくりができた。また、昨年度から実施している地域の専門学校での体験学習も定着し、今後も継続していく見通しができた。あわせて、ギター部や美術部の文化部による地域への貢献活動も進めることができた。学校から地域に出ていく活動が進んできたと感じる。

（様式）

【今後の課題】

学校運営協議会委員によるプール授業の監視など行うことはできたが、もっと地域から学校に入り込んでもらう活動の充実を図ることで地域から「地域にある自分たちの学校」となることをめざしたい。

※コミュニティ・スクールの活動としてプール授業の監視など一歩踏み出すことができた。あわせて、こ小中連携の取組みも進んで定着してきたことからＡと判断した。